

令和5年度 学校評価における結果と課題

中央市立豊富小学校

学校教育目標 「心豊かに、かしこく、たくましく生きる子どもの育成」

I はじめに

全体を通じて、昨年同様に「肯定的評価」の割合は高いと言える。「肯定的評価」が85%を下回る評価項目は、児童が2項目、保護者が5項目、職員が2項目である。児童と保護者、教職員の三者比較の特徴的な項目や、昨年度からの経年の変化、評価の低さがうかがえる項目、成果が現れている項目等を検討し、本校児童のよりよい成長につながるよう考察をしていきたい。

II 本年度の努力目標（学校経営の重点）

- (1) 学習指導～学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びが味わえる授業を創造する。
(学校評価の教科指導の領域No.5～No.11)
- (2) 生活指導～生活指導の充実を図り、心通い合う居心地の良い学級・学年づくりに努める。
(学校評価の生徒指導の領域No.12～No.16)
- (3) 学校運営（経営）～組織的対応で経営方針が教育活動の中に実現する。
(学校評価の学校経営の領域No.1～No.4)
- (4) 特別活動・その他～まごころをはぐくみ、しなやかな心の育成に努める。
(学校評価の特別活動の領域No.17～No.21)

III 領域別項目の考察

領域	自己評価の結果	今年度の取組と考察
(1) 学 校 経 営	1.「学校生活は楽しいか」は、児童が平均値3.48、保護者が3.47、職員が3.25と昨年度同様、高い評価である。 2.「目標を持った学校生活」について、児童は平均値3.24と昨年度より低く評価している。保護者は2.92、教職員は3.13と昨年度に比べると少しであるが高くなっている。	1.学校経営基本方針に基づき、児童が有意義な学校生活を送れるよう、教師集団が一丸となって取り組んでいる成果が出ていると考えられる。しかし、不登校傾向の児童が数名出ていることや、否定的回答をしている児童が15名存在することを真摯に受けとめ、児童への声掛けや保護者と連携しながら改善を図りたい。 2.学校では、節目あるごとに様々なアプローチから児童に目標を持たせ取り組ませている。しかし数値を見ると、目標を持って学校生活を送れていないと感じている児童が18名いる。目標を持たせた家庭学習等、学校での取り組みを保護者の理解を得ながら継続していくことが望ましい。

(1) 学 校 経 営	3.「情報提供」については、保護者平均値は 3.56、教職員は 3.75 と昨年に比べ微増している。 4.「学校生活の安全性確保」は、児童が平均値 3.48、保護者 3.45、教職員 3.63 と比較的高い評価である。	3.学年便りで学校生活の様子を伝えたり、保健、給食、図書便りで各分掌の情報を提供したりした。また、安心メールを活用して、野生動物出沒における注意喚起や不審者や天候への対応等の情報を伝えた。こうした情報提供が保護者の一定の評価につながっていると思われる。 4.安全点検を実施しつつ、安全を第一に迅速な対応を心がけている。学校生活では、様々な対応が必要となっている。事故の起きない学校生活のために、今一度気を引き締めたい。
(1) 学 校 経 営	【改善に向けて】 ① 学校経営方針を全教職員が日々意識し、職員会議などで全校児童の状況を把握しながら、より良い成長をめざして小さな取組でも一歩ずつ進めていく。PDCAサイクルで検証し課題改善に努めていく。 ② 学校生活の楽しさを保証していくために、学校行事を取り組んでいくのは大切だが、それを支える日常の生活を充実させていくことも重要である。毎日の学校生活に目標を持ち、有意義な活動となるように、今後も価値づけていくようにする。 ③ 教育活動の内容を地域・保護者に知らせる努力を継続していく。新型コロナが第 5 類に移行となり、コロナ禍前と同様にCS（コミュニティスクール）として、可能な限り、委員の方たちに学校行事を精査・工夫した上で参加していただけるようにした。そこでいただいたご意見は、今後の学校運営に参考にしていく。各種のおたよりや、学校HPも工夫していく必要がある。 今後も、学校行事をより必要性のあるものとするために、実施形態を工夫し、保護者等との交流の機会を設けるなどし、開かれた学校・地域と共にある学校を構築していきたい。	
(2) 教 科 指 導	5.「分かる授業に努めている」は、児童が平均値 3.49、保護者が 3.62、教職員が 3.69 であり、2 年連続で微増し、比較的高い評価である。 6.「児童が理解しているか気を配っている」については、三者のうち児童の平均値 3.70、保護者が 3.43、教職員が 3.63 と 2 年連続で比較的高い評価である。 7.「意欲的に取り組む授業づくり」は、教職員は平均値 3.69、保護者の平均値は 3.22 であり、二者とも 2 年連続で微増している。	5.感染対策をしながら、「対話的な学び」「共働的な学び」を少しずつ行ってきた。少人数での対話や、ICT機器の活用等、児童の多様な対話的な学びが出来る工夫をしてきた。家庭学習は、掲示で良いモデルを示しつつ褒める活動をして伸びがみられるが、個人や学年によって取組に温度差がある。 6.「理解しているかどうか」の把握は難しい。日常の授業中からの確にとらえられるように、校内研究等の授業実践や提案を通し、教師の授業行為をさらに洗練し、細やかな確認作業を入れていく必要がある。 7.評価の難しい項目である。授業改善の中で、学習指導要領が目指す「学びに向かう力」を高めていきたい。単元導入部の「教材との出会い」、単元中盤での「学習への前向きな姿勢」、単元終末部での「達成感・充足感のあるまとめ」を生み出せるよう、今後も授業の工夫をしていく必要がある。

(2) 教科指導	8.「地域の環境や人材を教育活動に生かす」は、学年によって活用の差があるが、平均すると児童は 3.48, 教職員は 3.13 と、二者とも評価が高い。 9.「授業評価の結果を授業改善に生かす」については、児童・教職員平均値はここ数年、比較的高い数値である。 10.「児童の学力向上」については、児童・保護者は昨年度と同様程度であるが、教職員において微減している。 11.「計画的な家庭学習の手立て」については、教職員で 3.65 と微増傾向にあり、保護者は 3.18 と、児童・教職員と比べ低い評価となっている。	8.今年度も、福祉教育車いすバスケ体験、pepper プログラミング体験、繭玉工作体験等、地域の方々との学習等々、外部講師を招聘することができた。児童にとって、学校行事を精査していく生活の中、外部講師との交流がとても好印象だった。感染症への対策を工夫をしながら外部講師を招聘して可能な限り復活させ実施してきた。地域資源や環境・人材を積極的に活用し、環境に見合った活動を充実させていきたい。 9.他者からの評価を真摯に受け止め、自分の今後の実践に生かしていける謙虚さを持ち続けたい。 10.喫緊の課題であり、本校の努力目標のトップ項目である。「やまなしスタンダード」はもちろん、「豊富ルール」についても再度全教職員で確認し、学習規律の確立に努めていきたい。学力を向上するための道具としての ICT 機器も、校内研究や ICT 支援員と連携して学びを深めていきたい。 11.昨年度とあまり変化はないが、児童保護者共に肯定的評価が 2 年連続で 85% を下回っている。今年度の校内研究の「気づき・考え・実行する」授業づくりから丁寧な課題提示と見通しのある学びの過程が児童の主體的な学びに結びつくことが実感できた。学び方への支援を今後も継続的にして計画的な家庭学習への手立てとしたい。
(2) 教科指導	【改善に向けて】 ① 引き続き「学習指導～学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びが味わえる授業を創造する」が学校経営の重点のトップ項目であることを常に意識し、不断の授業改善に努めていく。 ② 「基礎的・基本的知識・技能の習得」をしっかりと身に付けさせることが、学力を定着させるうえで何よりも大切である。「主体的・対話的・深い学び」という学び方により共に学び互いに高めていくと共に、個人において「話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと」を大事にさせながら継続して指導していきたい。 ③ 日々の家庭学習については、今後も家庭と連携して継続的・発展的に取り組んでいく。宿題だけでなく、今の学年の学習をすべて習得できるよう、各自にあった内容を考え、家庭での自主的な学習の取り組みを進めていきたい。	
(3) 生徒指導	12.「児童のあいさつがよくできているか」について、児童は 3.31 保護者は 3.02 と昨年度より平均値は上がったが、教職員は 2.75 と下がった。	12.来校するお客さんにたいして大きな声であいさつは出来るが、登下校時はあまり出来ていなかったが、継続した取り組みで「高学年児童が率先してあいさつしてくれます。」という保護者からの声もでてきた。ここ数年続く肯定的評価 85%未満の項目であるが、保護者のあいさつ運動への意識は高い。今後も年 3 回の PTA のあいさつ運動を強化し、児童会を中心としての日常的な取り組みも強化していきたい。

(3) 生徒指導	13.「児童や保護者からの相談」については、児童は 2.96、教職員は 3.63 と 2 年連続で微減、保護者は 3.61 と微増している。 14.「いじめなどない楽しい学級づくり」の項目である。 15.「生徒指導」の項目である。児童 3.68、教職員 3.63 とともに評価は高い。 16.「児童理解」の項目である。児童の平均値 3.45、保護者 3.46、教職員 3.26 と、三者とも高い評価である。	13.学校生活において、環境的にも時間的にもゆとりがない現実がある。しかし、2 年連続で数値が下がっている児童にとって心地よい居場所となるよう、もっと児童の話に耳を傾けるよう意識して声かけ等を中心に、対応していく必要がある。 14.三者とも 90%以上の高い数値だが、少数意見も引き続き大切にしていく。今後も生活アンケートのさらなる活用と Q-U 検査の結果も活かし、引き続き取り組んでいく。 15.様々な実態を持つ児童が多い中、各教職員は互いに連携したり、保護者と連絡を密にしたりしながら、課題となる状況に正対している。職員会議後毎行われる情報共有の場において、全職員の協力のもと、迅速な初期対応によって、事態の悪化を回避することができたことを踏まえ、今後も継続して職員がチームとして連携しながら対応していきたい。 16.重要な設問である。低い評価をしている児童と保護者の意見を謙虚に受け止めなければならない。児童とのよりよい関係づくりを進め、「教職員同士で悩みやアイデアを共有しあえる状況」も同時に構築していく必要がある。
(3) 生徒指導	【改善に向けて】 ①「あいさつ運動」は児童会の取り組みの大きな柱になっている。児童会でも全校にあいさつを呼びかけ、児童への意欲付けを図ってきた。また、PTAでも保護者から児童へとあいさつの声かけを行う取組を年 3 回実施した。今年度は、保護者の参加は昨年並みであった。自分たちからあいさつをする児童は、まだ少ない。声をかけられるとあいさつを返す児童がほとんどである。子どもたちのあいさつの状況は少しずつ良くなってきているが、継続的に取り組み、日常化を図りたい。 ②日常的に起きる小さなトラブルでも、児童の話をよく聞き、対応するように努めている。教職員としては全力で対応をしているが、対応に不満を感じている児童が（発達年齢によって事態を客観的に捉えられないとは言え）存在することを真摯に受けとめ、改善していきたい。 ③いじめに関わるアンケートを年 3 回学期ごと全校が実施し、集計結果をもとに全教職員で情報交換・対応を行っている。ほとんどの案件の解決をみたが、気になる児童については個別に対応し、解消に向け継続対応していく。 ④スクールカウンセラーによる相談も実施し、担任とも連携して対応することができた。管理職や関係者を含めた会議も行った。未だ個々には解決されていない課題もあるが、早期発見・早期対応を全教職員で心がけ、共通理解をし対応してきたため、問題が大きくなる前に対応できた。 ⑤Q-U 検査を実施し、結果を共有化し、学年・学級経営に反映させた。また、毎月職員会議後、気になる児童の情報を共有する時間を設けている。	

(4) 特別活動	17 「校内の環境整備」については、児童が平均値 3.57, 教職員が 3.63 で、比較的高い評価である。 18 「児童会活動の充実」についても、児童が平均値 3.49 で微減, 教職員は 3.56 で、昨年度より微増している。 19 「学校行事の充実」についても、児童が平均値 3.62, 保護者 (3.69) と教職員 (3.81) は、昨年度同様、高い評価である。 20 「委員会活動の充実」について、児童・教職員ともに数値が高めで、数年安定した値である。 21 「心の教育」について、児童が平均値 3.46 と微減, 保護者 3.38 教職員 3.56 と、二者とも 2 年連続で評価が微増している。	17 教職員も全員掃除分担を受け持ち、児童と共に掃除をしている。不在の学年があるとき、自分の学年以外の掃除分担を率先して行う高学年の姿が見られた。その姿は進んで学校をきれいにしようとする心を育てる良い手本となっている。 18 例年、児童会活動の意義やねらいを教職員がしっかり認識し、子どもたちの縦の関係や協力・役割意識を大事に育てようと工夫しながら、様々な児童会活動を展開している。コロナ禍に縮小した児童会活動を今年度は、少しずつ戻し、取り組み方を工夫しながら実施してきている。 19 昨年度は、感染症対策のため、学校行事は例年通りには実施できなかった。今年度は、昨年度より学校行事が出来るように計画・実施を進めてきた。また、ICT 機器等を活用し、学校行事を工夫して実施することが出来た。 20 年 6 回委員会の時間があるが、その中で何ができるかを厳選し、活動している様子がかがえた。その年の環境変化により、活動内容も変化しつつある。実態や目的に応じ、臨機応変に対応していきたい。 21 校内研究のテーマとして「居心地のよい学級づくり」を掲げ、道徳の授業はもちろん、教科等の授業、集会や登下校指導、給食時等、あらゆる機会を通じて豊かな心を育くもうと努力してきた。引き続き意識して、実践していく。
(4) 特別活動	【改善に向けて】 ①今年度はコロナ禍前と全く同じではないが、草取りやゴミ拾い、掃除等を全校で取り組むことができた。PTA 奉仕作業もコロナ禍前の在り方で実施することができた。「校内美化」の意識を一層高められるよう取り組む計画を工夫したい。 ②今年度の運動会は、コロナ対策を解除し、応援エリアやカメラゾーンを生かしながら、昨年同様の半日の開催で実施した。保護者の理解・協力もあり、無事実施することができた。種目内容や数を精査すると共に、時間を考慮したうえで実施することができた。今後も、児童・教職員・保護者が協力して、さらに充実した取り組みにしていきたい。 ③児童会、委員会活動、クラブ活動等は、今後も児童の創意工夫を取り入れながら意欲を喚起して、高学年を中心に自治的な活動を展開し、高学年としての意識付けをしていく。 ④自己肯定感や自己有用感を育む活動を一層展開し、困難や逆境に負けない「しなやかな心」を育みたい。学校、家庭のそれぞれの立場を生かしながら、あたたかな言葉かけ、愛情の伝わる態度で接することを心がけ、児童一人ひとりのまごころを育てていきたい。	

Ⅳ 保護者のご意見を受けて

(1)教科指導・学習指導について

- ① 確かな学力が身につけられるよう、個々の実態を把握し、一層の授業改善・創意工夫に取り組む。
- ② 家庭学習について望ましい方向に児童と保護者の意識が高まっている。一方で、なかなか思うように学習が進まず困惑している様子もうかがえる。学校と家庭が連携して今後も取り組んでいく。

(2)生徒指導・生活指導について

- ① 未然防止に努めるとともに、問題が起こったときには、教職員間で共通理解を図り迅速に対応する。
- ② 指導に対する個々のご指摘を、全教職員で共有し今後の指導に生かしていく。

(3)学校経営・学校運営について

- ① 学校の取組や努力をよく理解していただき、評価してくださっている。
- ② 安全性確保には、環境整備と安全指導を細やかに徹底していく。
- ③ 悩む児童・保護者の声を真摯に丁寧に聞き、寄り添う意識で課題解決に向き合っていく姿勢を維持する。

(4)特別活動について

- ① 子どもたちが望ましい人間関係を育み、主体性・社会性が伸ばせるような活動を仕組んでいく。